

第53号

かわしん 景況レポート

(令和4年10月～12月期調査)

調査の概要

1. 調査の目的 当金庫取引先の最近の景気動向の把握と取引先等に対する経営情報の提供を目的に実施しています。
2. 調査の時期 2022年12月1日（木）～12月7日（水）
3. 調査の内容 2022年7～9月期と比べた2022年10～12月期の業況
2022年10～12月期と比べた2023年1～3月期の見通し
特別調査「2023年（令和5年）の経営見通し」
4. 調査対象 当金庫お取引先企業 400社
5. 業種別対象企業数 製造業 94、卸売業 60、小売業 59、サービス業 59、
建設業 80、不動産業 48
6. 調査方法 聴き取りによる調査
7. 分析方法 この調査の分析はDI（Diffusion Index）を景気判断の指数として用います。DIは（「増加」「上昇」「楽」）したと答えた企業割合から（「減少」「下降」「苦」）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことです。この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景況の動きを時期的な推移の中で把握しようとするものです。なお、「増加」には「やや増加」を「減少」には「やや減少」を含みません。「上昇」「下降」等も同様です。



ユリオプスデージー

目次

| | |
|---------------------------------|-------|
| ■ 時 流 | P1 |
| ■ 中小企業景気動向調査 | |
| 全業種 | P2 |
| 製造業／卸売業／小売業 | P3 |
| サービス業／建設業／不動産業 | P4 |
| お客様の声 | P5 |
| 特別調査 2023年（令和5年）の経営見通し | P6 |
| ■ トピックス | P7 |
| ■ 事業再構築補助金導入企業紹介 有限会社喜久商事 | P8～P9 |

時流 物価高騰が長引く理由



SMBCH興証券株式会社
日本担当シニアエコノミスト

みやまえ こうや
宮前 耕也

経歴

2002年大阪ガス入社。2006年財務省出向、大臣官房総合政策課調査員として日本経済、財政の分析に従事。2008年野村證券入社、債券アナリスト兼エコノミストとして日本経済、金融政策の分析に従事。2011年SMBC日興証券入社、エコノミスト、シニア財政アナリストを経て現職。著書に「アベノミクス2020—人口、財政、エネルギー」（エネルギーフォーラム社）。

コアCPIと呼ばれる、生鮮食品を除く消費者物価指数は、2022年11月に前年比+3.7%と大幅に上昇しました。円安進行に消費増税が重なった2014年度の物価高騰局面を超え、第二次石油危機以来の約41年ぶりとなる高い伸び率です。また、2014年度の局面では、物価高騰が長続きしませんでした。2015年度に入るとコアCPI上昇率はゼロ近傍にとどまりました。ですが、今回の局面では物価高騰が長引きそうです。2022年度に引き続き2023年度も、コアCPIは前年度比+2%台となる見込みです。なぜ物価高騰が長引くのでしょうか。前回の局面との対比で考えると、理由は主に3点挙げられます。

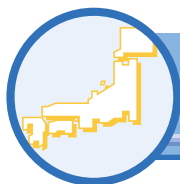
1つ目の理由は、輸入物価の上昇率が大きいからです。前回の局面では、輸入物価上昇率は前年対比で2割弱がピークであったのに対し、今回の局面では4割前後に達しました。8割前後の上昇率を記録した2度の石油危機に次ぐ大きさです。輸入物価の大幅上昇は、資源高に円安進行の影響が重なったために生じています。ウクライナ危機前から、脱炭素推進の影響で原油供給の抑制が懸念され、原油価格が上昇傾向を辿りました。ウクライナ危機後には、原油のほか小麦など広範な商品市況が高騰しました。また、インフレ抑制のために世界の中央銀行が金融引き締めを実施する中、日本銀行は金融緩和を継続したため、金融政策格差の拡大が意識され、円安が進行しました。輸入物価の上昇率が大きいと、品目によっては価格転嫁の動きが一気に生じず複数回に及んでいます。また、前回の局面では円安主導による輸入物価上昇であったのに対し、今回の局面では円安に資源高が重なっているため、製造業においてコスト高吸収の余力が小さく、価格転嫁の圧力が強まっている側面もあります。

2つ目の理由は、個人消費が意外にも堅調なためです。前回の局面では、消費増税に伴う駆け込み需

要の反動で個人消費が大きく落ち込み、その後も節約志向が続いて個人消費が伸び悩みました。ですが、今回の局面では、物価高騰にもかかわらず個人消費は増加傾向を辿っています。コロナ禍による外出自粛など制約が解消される過程にあるためでしょう。個人消費はコロナ禍前の水準まで概ね回復しましたが、10%への消費増税前の水準には達していません。また、自動車について言えば、半導体不足の影響で生産が低迷したため、未消化の需要が残っています。個人消費はまだ回復余地があり、価格転嫁の動きもしばらく続きそうです。

3つ目の理由は、エネルギー価格の負担軽減策がいずれ終了へ向かうためです。まず、燃料油価格激変緩和補助金により、ガソリン代や灯油代は昨年来上昇が抑えられています。全国平均のガソリン価格は、補助金がなければ本来昨年春に1リットル200円台を突破していたはずですが、補助金効果により長らく1リットル170円前後で膠着しています。ですが、補助金は今年から段階的に縮減され、9月末には終了する予定です。また、昨年秋に打ち出された経済対策により、電気代、都市ガス代ともに、1月検針分、2月請求分から負担が軽減されます。ですが、電気代については、今年春から多くの地域で規制料金が引き上げられる見込みです。また、脱炭素の流れに逆行しないよう、電気代、都市ガス代の負担軽減策は今年の秋以降に段階的に縮小される予定です。今年末頃からエネルギー価格は前年比で上昇し、物価全体を押し上げる見込みです。

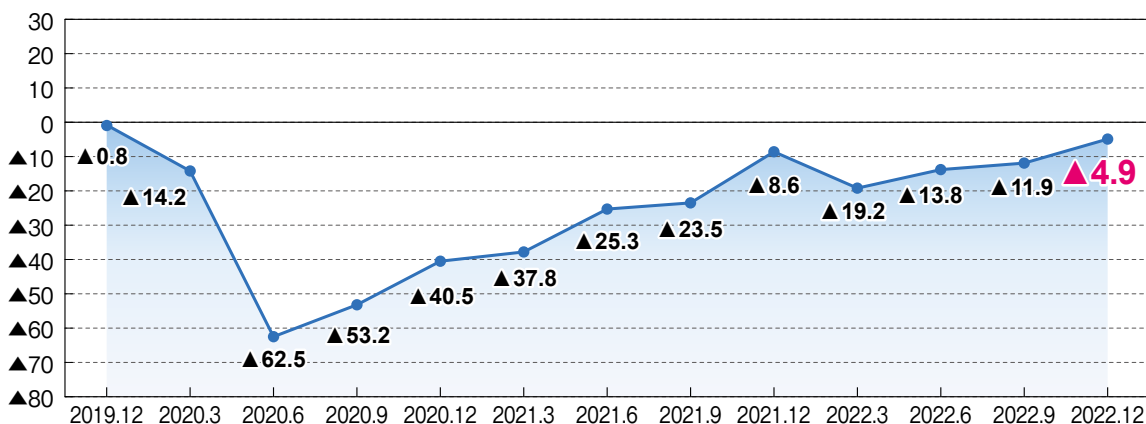
以上の3つの理由が重なり、物価高騰は長引きそうです。個人消費は、コロナ禍の制約解消で回復余地がありますが、それが一巡する来年頃には、物価高騰のダメージがボディーブローのように効き、低迷が長引く可能性があります。



全業種

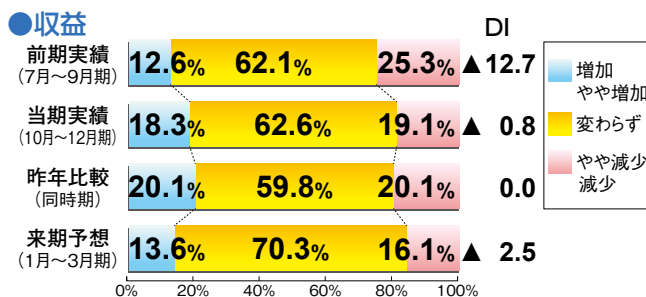
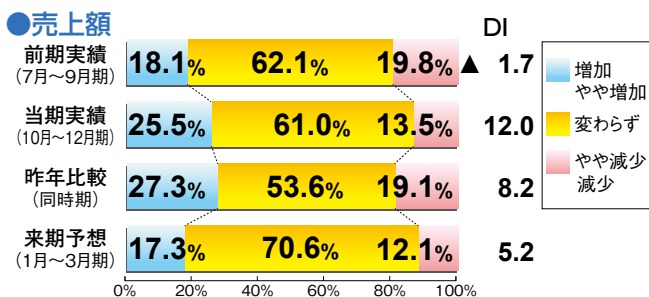
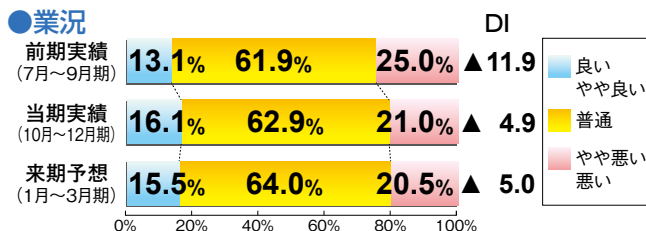
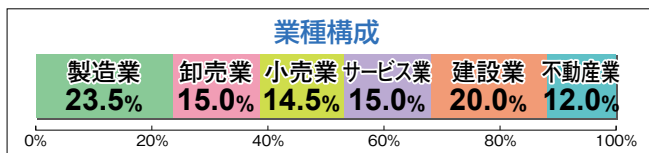
All industry

「業況DI」推移



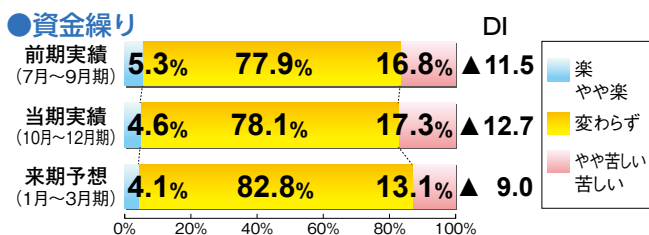
業況・売上・収益

- 業況
全業種の当期（10～12月）の業況判断DIは▲4.9で、前期（7～9月）の▲11.9と比べて7.0ポイント良化しています。来期（1～3月）については▲5.0とやや悪化すると予想しています。
- 売上
売上額判断DIは、前期▲1.7から当期12.0と13.7ポイント良化しています。来期は5.2と悪化に転じると予想しています。
- 収益
収益判断DIは、前期▲12.7から当期▲0.8と11.9ポイント良化しています。来期は▲2.5とやや悪化に転じると予想しています。



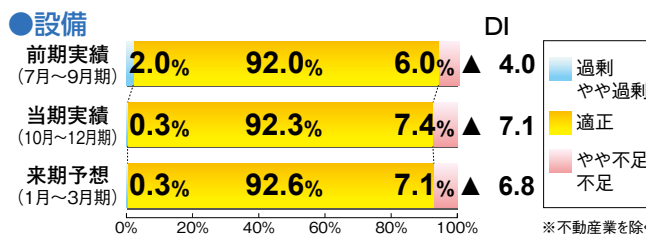
資金繰り

資金繰り判断DIは、前期▲11.5から当期▲12.7と悪化しています。来期は▲9.0と良化すると予想しています。



設備

設備状況判断DIは、前期▲4.0から当期▲7.1と悪化しています。来期は▲6.8とやや良化すると予想しています。





製造業

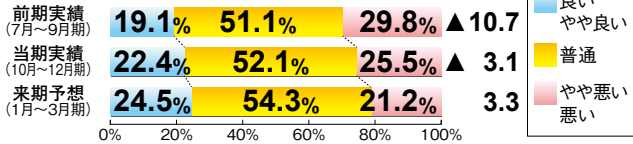
Manufacturing industry

業況・売上・受注・収益

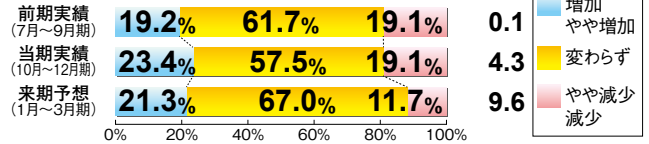
製造業の当期(10~12月)の業況判断DIは▲3.1で、前期(7~9月)の▲10.7と比べて7.6ポイント良化しています。来期(1~3月)は3.3とさらに良化すると予想しています。

売上額判断DIは、前期▲1.0から当期17.0と18.0ポイントと大きく良化しています。来期は10.7と悪化すると予想しています。受注残判断DIは、前期0.1から当期4.3と良化しています。来期は9.6とさらに良化すると予想しています。収益判断DIは、前期▲7.4から当期9.5と大きく良化しています。また、来期は5.3と悪化に転じると予想しています。

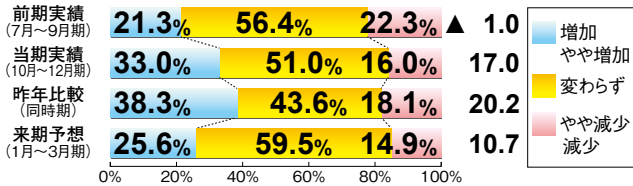
●業況



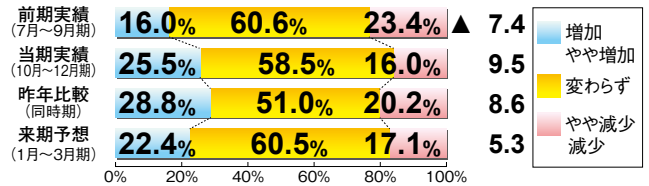
●受注残



●売上額



●収益



卸売業

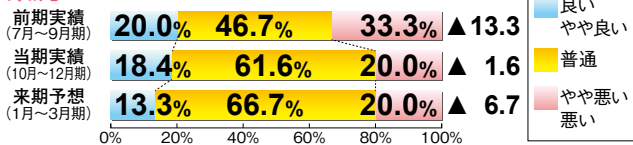
Wholesale industry

業況・売上・収益

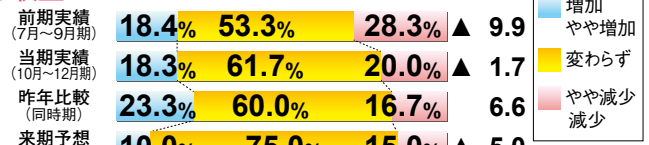
卸売業の当期(10~12月)の業況判断DIは▲1.6で、前期(7~9月)の▲13.3と比べて11.7ポイントと良化しています。来期(1~3月)は▲6.7と悪化に転じると予想しています。

売上額判断DIは、前期▲6.6から当期6.7と良化しています。来期は1.7と悪化に転じると予想しています。収益判断DIは、前期▲9.9から当期▲1.7と良化しています。来期は▲5.0と悪化すると予想しています。

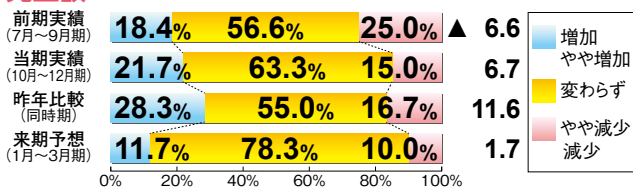
●業況



●収益



●売上額



小売業

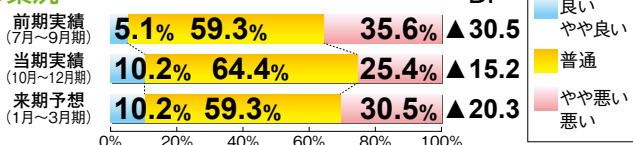
Retail business

業況・売上・収益

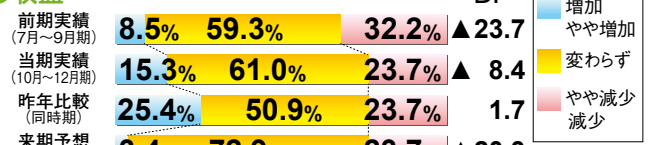
小売業の当期(10~12月)の業況判断DIは▲15.2で、前期(7~9月)の▲30.5と比べて15.3ポイント良化しています。来期(1~3月)は▲20.3とやや悪化すると予想しています。

売上額判断DIは、前期▲18.6から当期11.8と大幅に良化しています。来期は▲8.4と悪化に転じると予想しています。収益判断DIは、前期▲23.7から当期▲8.4と良化しています。また、来期は▲20.3と悪化すると予想しています。

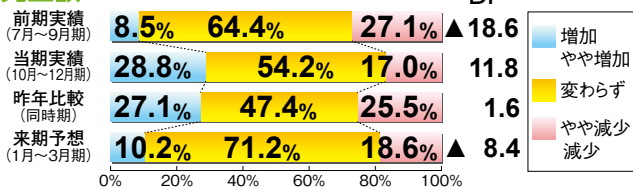
●業況



●収益



●売上額





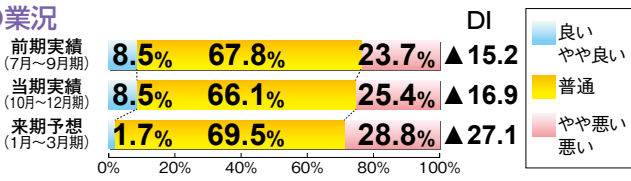
サービス業 Service industry

業況・売上・収益

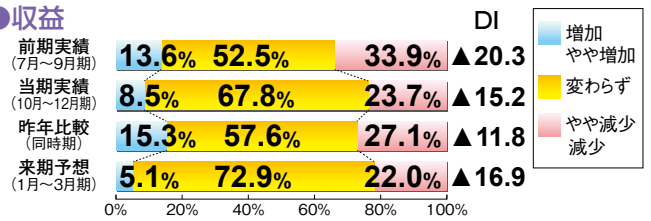
サービス業の当期(10~12月)の業況判断DIは▲16.9で、前期(7~9月)の▲15.2と比べて1.7ポイント悪化しています。来期(1~3月)は▲27.1とさらに悪化すると予想しています。

売上額判断DIは、前期▲10.1から当期▲5.0と良化しています。来期は▲8.4と悪化に転じると予想しています。収益判断DIは、前期▲20.3から当期▲15.2と良化しています。来期は▲16.9とやや悪化すると予想しています。

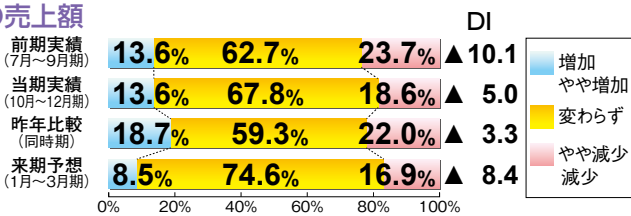
●業況



●収益



●売上額



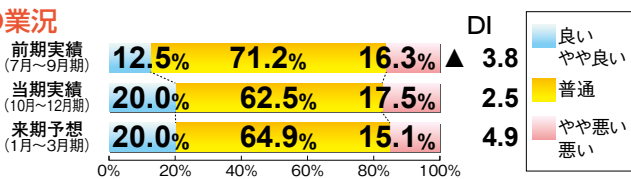
建設業 Construction industry

業況・売上・受注・収益

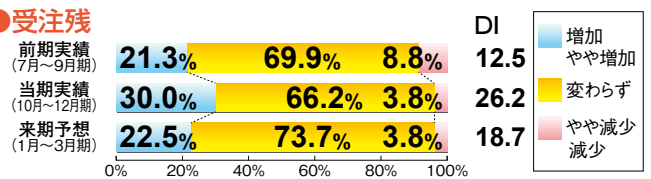
建設業の当期(10~12月)の業況判断DIは2.5で、前期(7~9月)の▲3.8と比べて6.3ポイント良化しています。来期(1~3月)は4.9とさらに良化すると予想しています。

売上額判断DIは、前期18.8から当期21.2と良化しています。来期は11.3と悪化すると予想しています。受注残判断DIは、前期12.5から当期26.2と大きく良化しています。来期は18.7と悪化に転じると予想しています。収益判断DIは、前期▲5.0から当期1.2と6.2ポイント良化しました。来期は1.2と横ばいになると予想しています。

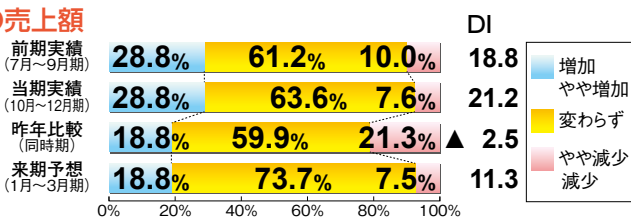
●業況



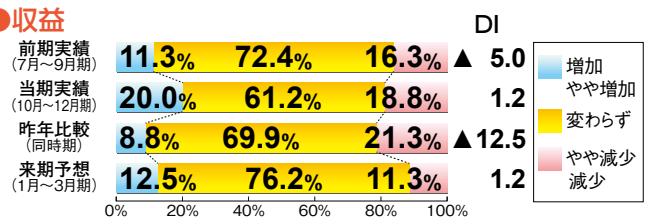
●受注残



●売上額



●収益



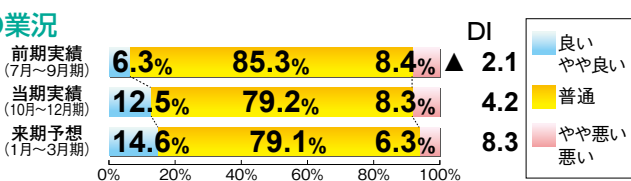
不動産業 Real estate industry

業況・売上・収益

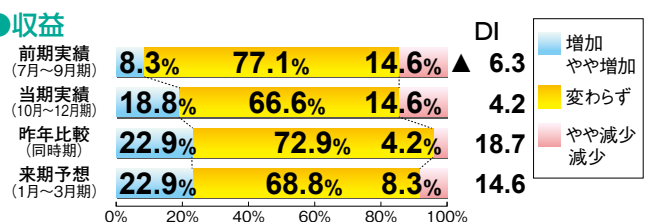
不動産業の当期(10~12月)の業況判断DIは4.2で、前期(7~9月)の▲2.1と比べて6.3ポイント良化しています。来期(1~3月)は8.3とさらに良化すると予想しています。

売上額判断DIは、前期0.0から当期16.6と大きく良化しています。来期は18.7とさらに良化すると予想しています。収益判断DIについては、前期▲6.3から当期4.2と良化しています。来期は14.6と大きく良化すると予想しています。

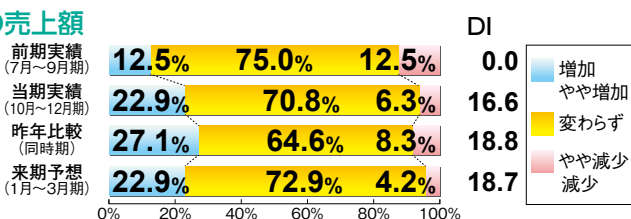
●業況



●収益



●売上額





お客様の声

Customer Reviews

製造業

材料費の高騰で資金繰りが悪化している。(機械製造) 人材不足が課題であり、今後に向けて人材を確保していきたいところである。(金属部品製造) 材料費引き上げが続いている。電力料が大幅に上昇しており利益を圧迫している。(鑄造) 機械の入れ替えを行いコストカットに取り組んでいる。原材料の高騰が続いており厳しい状況である。(樹脂成型加工) 売上高、利益共に順調に推移している。材料の一部は中国からの輸入となっているので、輸入の遅れが心配。(樹脂部品製造)

卸売業

原材料の高騰を販売価格に転嫁できており大きな変動は感じられない。(建築資材) ウクライナ情勢を起因とした仕入価格高騰で、粗利の確保が以前よりも厳しさを増している。(電子部品) 海外事業もあることから、円安や海外情勢については非常に気に掛けている。(衣料品) 材料費が値上がりしている為、仕入調整により利幅縮小を改善していく方針。(精密部品) 商品仕入金額が増加している。現在長期資金は必要ないが、短期資金は必要となる場合があるかもしれない。(電材)

小売業

半導体不足の影響により納期が長期化している。しかしながら最近は少しずつ状況が改善してきており、売上は順調に推移している。(自動車販売) 立地条件により思うように人が確保できない。(医薬品等) 部活、地域の大会が行われたことなどから多少売上増だが、仕入値も多少増のため利益としては例年と変化なし。(スポーツ用品) 物価上昇による商品価格上昇は対応できているが、買い控えの影響も考えられる。(生鮮食料品) 年末は売上増加する時期だがあまり増加していない。新聞広告等で更なるPRを図っていく。(生活用品)

サービス業

旅行者等の増加に伴い自動車修理件数は増加しており、業況は回復傾向にある。(自動車整備) コロナの影響はほとんどない。業況安定推移。(美容室) 現在人手不足に悩まされておりハローワーク等へ募集をかけている。(自動車整備) 原油価格高騰による経費の価格上昇懸念。感染拡大によるイベント関連の再自粛等も売上に大きく影響してくる。(廃棄物収集運搬) 既存取引先のアフターフォローを充実し、潜在的なニーズの発掘に努める。(HP作成)

建設業

倉庫や物流拠点向け案件が増加しており、増収傾向。原材料費高騰の影響が吸収しきれず減収見込み。(総合建設) 現在、原材料の高騰はそのまま価格に転嫁している。そのため直接収益への影響は少ないが、取引先は皆苦しい様子である。(住宅建築) 原油、材料の高騰が著しく、利益率が減少傾向に。当面の間は回復の見込みなし。(基礎工事) コロナの影響が落ち着き売上回復傾向にあったが、そろそろ落ちてくる見通し。人手不足は継続。(設備工事) 現状人手不足となっている。人材の確保ができれば業況の回復が見込まれる。(内装工事)

不動産業

仕入価格が高騰しており利幅が縮小している。(建築不動産) 物件仕入価格高騰と物件不足については今後も懸念あり。(不動産仲介・管理) 賃貸物件、駐車場管理について特段変わることなく推移している。(不動産管理) 事業エリア周辺には建設業が多く資材置場等のニーズがあるものの、物件が少なく案内が難しい。(不動産仲介) 商品用土地の価格高騰に対応できないことが多い。(不動産仲介・販売・管理)



- 問1. 貴社では、2023年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

| (選択項目) | (人数) | (構成比) | (選択項目) | (人数) | (構成比) |
|---------|------|-------|---------|------|--------|
| 1.非常に良い | 0 | 0.0% | 5.やや悪い | 172 | 42.8% |
| 2.良い | 3 | 0.8% | 6.悪い | 77 | 19.3% |
| 3.やや良い | 25 | 6.3% | 7.非常に悪い | 10 | 2.5% |
| 4.普通 | 113 | 28.3% | 合計 | 400 | 100.0% |

- 問2. 貴社では、2023年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

| (選択項目) | (人数) | (構成比) | (選択項目) | (人数) | (構成比) |
|---------|------|-------|---------|------|--------|
| 1.非常に良い | 1 | 0.3% | 5.やや悪い | 111 | 27.8% |
| 2.良い | 6 | 1.5% | 6.悪い | 27 | 6.8% |
| 3.やや良い | 43 | 10.8% | 7.非常に悪い | 2 | 0.5% |
| 4.普通 | 210 | 52.3% | 合計 | 400 | 100.0% |

- 問3. 2023年において貴社の売上額の伸び率は、2022年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

| (選択項目) | (人数) | (構成比) | (選択項目) | (人数) | (構成比) |
|-------------|------|-------|-------------|------|--------|
| 1.30%以上の増加 | 4 | 1.0% | 6.10%未満の減少 | 58 | 14.5% |
| 2.20~29%の増加 | 6 | 1.5% | 7.10~19%の減少 | 13 | 3.3% |
| 3.10~19%の増加 | 32 | 8.0% | 8.20~29%の減少 | 4 | 1.0% |
| 4.10%未満の増加 | 84 | 21.0% | 9.30%以上の減少 | 0 | 0.0% |
| 5.変わらない | 199 | 49.7% | 合計 | 400 | 100.0% |

- 問4. 貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

| (選択項目) | (人数) | (構成比) | (選択項目) | (人数) | (構成比) |
|-------------|------|-------|-----------------|------|--------|
| 1.すでに上向いている | 43 | 10.8% | 5.3年後 | 62 | 15.4% |
| 2.6か月以内 | 33 | 8.3% | 6.3年超 | 41 | 10.3% |
| 3.1年後 | 89 | 22.2% | 7.業況改善の見通しは立たない | 71 | 17.7% |
| 4.2年後 | 61 | 15.3% | 合計 | 400 | 100.0% |

- 問5. 2023年の事業環境を展望したとき、貴社にとっての経営リスクは何ですか。最も当てはまるものを1~0から3つ以内で選んでお答えください。

| (選択項目) | (人数) | (構成比) | (選択項目) | (人数) | (構成比) |
|------------------------|------|-------|----------------|------|--------|
| 1.原材料・仕入価格のさらなる高騰 | 315 | 37.2% | 7.経営者や従業員の健康問題 | 50 | 5.9% |
| 2.原油・天然ガス等のエネルギー価格高騰 | 152 | 17.9% | 8.コロナ融資の返済 | 12 | 1.4% |
| 3.コロナなど感染症の感染再拡大 | 129 | 15.2% | 9.円安・インフレの加速 | 60 | 7.1% |
| 4.ロシア・ウクライナを含む海外情勢の緊迫化 | 67 | 7.9% | 0.その他 | 2 | 0.2% |
| 5.台風・豪雨・地震・噴火などの自然災害 | 22 | 2.6% | 合計 | 848 | 100.0% |
| 6.取引先廃業等による売上げ激減 | 39 | 4.6% | | | |

トピックス

● 会津信用金庫・鹿沼相互信用金庫との3金庫連携協定を締結

当金庫と会津信用金庫・鹿沼相互信用金庫は、令和4年11月29日に3金庫での連携協定を締結致しました。本連携協定は、3信金の営業エリアにおける観光や産業の振興による地域活力の創造を目的としております。今後の具体的な取り組みは以下のものを予定しております。

- (1) 各信用金庫営業エリアにおける祭事・イベント等の情報発信と旅行企画による集客増加を通じた地域観光経済の発展活動
- (2) 上記祭事・イベント等への取引先への出店依頼によるビジネスマッチングの推進
- (3) 地域団体主催のビジネスマッチング・事業者交流会への相互参加の推進



(左より) 会津信用金庫 星幹夫理事長 川口信用金庫 木村幹雄理事長 鹿沼相互信用金庫 橋本公之理事長

● 日本工業大学で寄附講座「創業の基礎」を実施

当金庫は産学連携の一環として日本工業大学へ寄附講座「創業の基礎」を毎年提供しております。日本工業大学は起業教育に力を入れており、本講座は起業を目指す学生への基礎教育の一環としてご活用頂いております。11年目となる本年度の講座は、当金庫職員の他、日本公庫、土業、ベンチャー企業役員、起業家、アートディレクター、ビジコン入賞者など多彩なキャリアを持つ講師陣で構成した全14回の講義を行いました。



第4回登壇
公認会計士/税理士 矢野裕紀様



募集時に大学で使用されたポスター



第5回登壇
(株)abilight 安部博枝様



第9回登壇
当金庫職員 佐藤拓磨(中小企業診断士)



第12回登壇
(株)デジタルベリー 谷本浩子様



第13回登壇
(株)しょうがのむし 周東孝一様

事業再構築補助金導入企業紹介

有限会社喜久商事(岩槻支店)



449 CUTLET
SANDWICH & COFFEE



とんかつ喜久

さいたま市岩槻区末田にある、創業37年の老舗とんかつ店「喜久(よしきゅう)」が、敷地内に隣接する建物をフルリフォームし、セカンドブランドとして「449 CUTLET SANDWICH & COFFEE(449カフェ)」をオープンしました。このオープンに至るまでの経緯や事業再構築補助金の活用について、チーフマネージャーである中野智行様や、顧問税理士である株式会社こうの経営取締役の関様に、八十田岩槻支店長がお話を伺いました。



「カフェオープンの きっかけについて」

八十田 まずは、老舗とんかつ店がカフェをオープンするきっかけや、その経緯についてお聞きしたいのですが。

中野 新しい業態で何かやりたいな、と思ったのは3年以上前で、コロナの前から考えていました。元々とんかつ店の別邸として「喜久翠」というのがあって、大きな宴会や法事等で使っていたのですが、利用状況が芳しくなく、どうにかしたいという思いがありました。2階建ての大きな建物だったので、どうしたらうまく活用できるのかを、よく仲間と相談しながら考えていました。



中野 智行 様

元々とんかつ屋ですし、とんかつ屋だからこそできるもの、と考えた時に、よくお客様から“カツサンド食べたい”という要望をいただいていたので、カツサンドと大好きなコーヒーをコンセプトにしたカフェにしました。

八十田 カツサンドのヒレカツは肉厚でジューシーですし、エビはプリプリで本当においしいですね。

中野 ありがとうございます。お客様には揚げたてを食べていただきたいので、お客様から注文をいただいてから揚げています。

八十田 そうなんですね。お店のコンセプトがアメリカ西海岸だと思うのですが、これは中野さんの好みですか。

中野 はい、お客様にはリラックスした空間を提供したかったので、アメリカ西海岸をコンセプトに、若いお客様やSNSを意識したお店作りを目指しました。お客様に「ワクワク」していただける空間を目指しているのです、これから徐々にですが、パワーアップしていきたいと思っています。



八十田 岩槻支店長

八十田 店名の「449」はとんかつ店「喜久（よしきゅう）」の語呂合わせなんですね。

中野 はい、みなさんに親しみをもっていただきたいので、とんかつ喜久で馴染みのある「ヨシキユウ」でも「ヨンヨンキユウ」でもみなさんが呼びやすい愛称で呼んでいただけたら嬉しいです。



「事業再構築補助金について」

八十田 それでは、「事業再構築補助金」活用を経緯についてお聞かせください。

中野 以前から新業態については考えていたのですが、そんな中コロナの流行があり、「事業再構築補助金」について知りました。すぐに、いつもお世話になっている「株式会社こうの経営」の関さんに確認すると、すぐ飛んで来てくれて。それから何度も話し合いをしながら、構想を練って行って、なんとか形にすることができました。

八十田 関さんは、「事業再構築補助金」の申請にあたって、どこから着手されたのですか。



関 申請にあたっては、まずは中野さんのお考えをよく聞くことから始めました。お話を聞く中で、本業であるとんかつ事業とこのカフェ事業がかけ離れているものではなく、これまでの経験やノウハウを活かすことができる無理のない計画だったので、スムーズに進めることができましたと思います。メニュー構成に関しても、カツサンドとエビカツサンドにこだわりのコーヒーという、すごく分かりやすいコンセプトであり、若いお客様を取り込んでいきたいという方向性が明確だったので、すごくやりやすかったです。

中野 川信さんにも申請について



のアドバイスをいただいたり、認定支援機関になっていただき、本当に助かりました。特に融資の面では骨を折っていただき、資金調達の面で心配せずに済み、感謝しております。ただ、採択されたときには、本当にどうしようかと逆に考えました。本当に進めていいのか真剣に考えましたが、こうの会計の関さんや川信担当の山田さんの後押しもあり、たくさんの方々の力をお借りして、なんとかオープンまで漕ぎ着けることができました。



関 健一 様

「今後の展望について」

八十田 大変なご苦労があったと思いますが、2022年9月5日無事にオープンすることができました。今後の展望についてお聞かせください。

中野 みなさんが1日中楽しめる、笑顔あふれる空間にしていきたいと思っています。その為にも、空間作りはもちろん、異業種の方とのコラボイベントなども定期的で開催し、人と人の繋がりを広げて行って、この地域を盛り上げて行けたらと思っています。

八十田 中野さんは、本当に交友関係が広いですね。

中野 ありがたいことに、人が人をよんで、横のつながりが広がり、相互に高めあえる、温かい仲間達に巡りあえました。これからも、このご縁を大切にしながら、色々な事に挑戦していきたいと思っています。

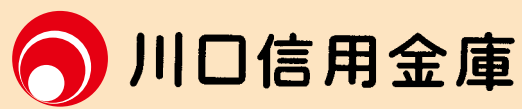
八十田 本日はありがとうございました。

449 CUTLET SANDWICH & COFFEE

さいたま市岩槻区末田2424-3
048-798-3449

営業時間 11:00~18:00
(ラストオーダー FOOD 17:00 / DRINK 17:30)
火曜定休





発行. 川口信用金庫 〒332-8686 埼玉県川口市栄町3丁目9番3号
地域産業支援課 T E L : 048-259-4111

HPアドレス : <https://www.shinkin.co.jp/ksb/>